FOA
FOOTBALL OFFICIALS ASSOCIATION
JAPAN

FOA・EAST
NSWS No.10

1992. 9. 28

蹴 球 と 奇 禍

服 部 慎 吾

何時も古い事許り書いて申し訳ないが古い事を知ってもらうのも悪くないと思って今回も又昭和初期のことを書く。

昭和初期に「アサヒスポーツ」と云う朝日新聞社から旬刊で発行されたスポーツ誌があった「アサヒグラフ」と同じ大きさで内容は当時の権威者が執筆し写真も多く権威のあるもので、現今の日刊紙のような芸能面や又ピンク記事は無く、スポーツでも裏記事的なものも無い真面目な記事で信頼されるスポーツ誌であった。

その「アサヒスポーツ」の昭和6年1月15日号に「蹴球と奇禍」と題して次のような記事が出ていた。面白いので全文を転記してみる。

『去年1930年の蹴球シーズンだけでアメリカンフットボールは13名の死者を出した。その内ハイスクールの生徒8名、大学生が4名、クラブ選手1名と云う割合だそうだがこれで1906年以来の25年間に出した犠牲者総数は235名と云う夥しい数に達すると云うことである。中でも1925年の死者20名と云うのが今迄の最高レコードだが、この時は流石のアメリカ人も大分驚いたと見え全米に蹴球禁止運動さえ起って一頃大騒ぎをやったことがある。これだけ夥しい死傷者を出すハードゲームだから蹴球選手といえばキット生命保険会社等で敬遠され、よし契約が成立っても必ずや特別課税されるだろうと思ったら、なかなかどうしてアメリカの統計によると蹴球選手の死傷数など問題じゃあなく狩猟の方がずっと高率を示していると云うことである。』

と云う記事である。フットボールの死傷者が多いことは日本でも良く知られていたが狩猟に比べると問題ではないと云うのだから如何に米国では狩猟が盛んで又危険であるかゞ解る。

なお死者235名の年代別内訳は、

1906年11人、7年11人、8年13人、9年12人、11年11人、12年13人、13年5人、14年13人、15年13人、17年12人、21年12人、23年18人、25年20人、26年9人、27年17人、28年18人、29年12人、30年13人と他の記録に出ていたが何故か10年、16年、18年、19年、20年、22年、24年の7年の記録が無いのはどう云うことであろうか、これらの年は死者が無かったと云うことであろうか？。

何れにしてもフットボールは死傷者の多いスポーツであると云うことは日本は勿論世界各国でもよく知られていた。又それだけに事故に対する対策即ち防具、規則、予防医学、等が最も進歩した科学的に完成したスポーツと云えるのではないだろうか。

我国でも数人の死者を出しているのが今後より一層指導に当る者は怪我予防の為には研究を重ねる必要があると思う。審判技術の向上もその重要な予防である。

戦後昭和21年我が国でもタッチフットボールが中等学校の体育正課として採用され、以後盛んになり26・7年頃には高校の対抗戦が行われるようになった。ヘルメットの代わりにラグビーのヘッドギアを着け、ユニフォームの肩にはパットを着け、タックルとタッチの違いこそあれその他は全くフットボールと同様なものになったので反つて危険であるので高校の指導の先生に防具を着けた正規のフットボールを行うことを推めたが校長がフットボールは怪我が多くて危険だと反対だし又父兄も絶対反対で正規のものは出来ないとの返答であった。現在は全国で多くの高校が防具を着け立派に試合しているのを見て今昔の感に耐えない。

NFL CLINICに参加して

インストラクタ委員　宮　島　敦　史

真夏日の続く7月31日（金)、代々木の織田オリンピックフィールドにて日本で初めての『NFL CLINIC DAY』が行われました。

当日は炎天下の中午前中に選手達の練習が行われ、午後からNFL審判のレフリー、ハワード氏による講義と質疑応答によるクリニックがなごやかな雰囲気の中、約1時間半ほど催されました。彼の経歴に始まって、ルール、体力トレーニング、レフリーとしての心得まで様々な話を聞くことができました。

NFL審査員は、選手に比べてかなりの年齢差があります。皆様ご承知のこととは思いますが、NFLの審判員になるためには、高校、大学等で審判員として十分なキャリアを積み、面接、筆記試験、私生活にも及ぶ様々なチェックを乗り越えて、晴れてNFLの審判員となれます。必然的に年齢は高くなり、選手との体力差は生じてくるものです。それを補うべく日頃の走り込み、夏季合宿における体力作り等、学ぶべきところが多数ありました。

また、審判員としての技術の面についてですが、シーズン終了後に送られてくるすべての試合のVTRによるチェック、スーパーボウル終了後に自宅に送付されてくるテスト、土曜日の夜に行われるテスト等、審判員としての知識、及び技術の向上を行っています。

最後にハワード氏の語った「レフリーとして大切な事」で締めくくります。

「クルーチームをよくまとめ、クルー全員が最善を尽くせる環境を作り、予習、復習は欠かさずに行って下さい。」

甲信越リーグ：雨の開幕

常　守　康　昌

「セット、ダウン、ハット！　ハット！」クォーターバックは、センターからのスナップをぎこちなく受け取ると、素早く且つ慎重にランニングバックにハンドオフする。次の瞬間、両軍選手入り乱れどろだらけの人間の山が出来上がる。グランドには大地が吸い切れなかった雨水が一面に広がり、昨日からの降雨量の多さを物語っている。試合前に茂出木さんが、「ここの土は関東ローム層と違うから、そり程グチャグチャにならないよ…」と、話していたが、そうは言ってもプレーしている選手たちにとっては十二分に厄介なコンディションである。

5月24日、甲信越リーグの長野会場でのオープニングゲーム、長野ブルーパースvs日本歯科大学新潟校は、予定の10：00キックオフから少し遅れて開始された。グランドはリバーフロントスポーツガーデン：その名の通り犀川の河川敷ではあるが天然芝を張った立派なフィールドであったが、関係者が心配していた通り、昨日の夕方から降り続いた雨のおかげで同じ川沿いにある別のグランドに必要となってしまった。我々3人をホテルからグランドまで案内してくれたブルーパーズの選手も、グランドを移動する為に土手道を車を走らせながら、芝生の土でプレーできないことをしきりに残念がっていた。

ゲームの開始頃まで降っていた雨もどうやら上がったようだ。雲の切れ間から青空ものぞき、フィールドに広がった水面に流れゆく雲が映っているが、それも束の間で、選手たちが走り出すと、地上の空も、一瞬のうちにかき消されてしまう。すでに選手ばかりではなくラインズマンの塚田さんや、審判として参加してくれた学生達も、かなり泥だらけになってしまっている。

学生達は長岡技術大の選手で、第二試合に出場しなければならないにもかかわらずボールの交換やゲームの進行に走り回ってくれており、そのフットボールに対する姿勢には頭が下がる思いだ。しかしながら地域のフットボールのより一層の向上を目指すのであるならば、このようなゲーム運営を避ける審判組織の確立が是非とも必要なのは間違いない。

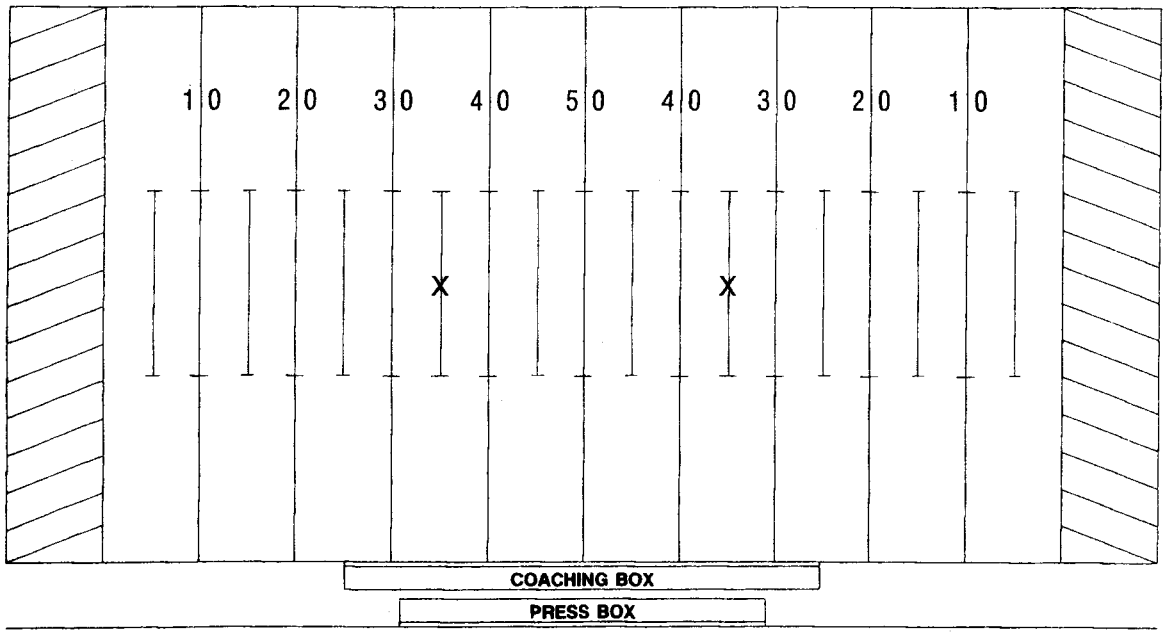
パスプレーはもちろんのこと、オープンへのランニグプレーもなかなか大きなゲインを生み出すにはいたらない。これは両チーム無得点も大いにあり得る。さて、引き分けの場合はどうするんだっけ？……。タイムアウトを利用しバックジャッジの茂出木さんへ歩み寄る。「3人によるコイントス。」がその答えであった。タイムアウトが解けブルーパーズのオフェンスから試合再開。遠くで雷が鳴っているのが聞こえてくる。周囲の山並みにはまだまだ不気味な雲が垂れ込めていて、山の神の御機嫌があまり芳しくないのがよく分かる。

雷の音に発奮したのかブルーパーズが相手ゴール前まで攻め込んできた、今日のゲームで始めての得点チャンスである。ホワイトのラインマンがボールデッドの後、相手選手の背中におもいっきりぶつかっていくのが目に入った。すぐさまイエローフラッグを投げる。

さて、やっと来たレフリーが一番目立つ場面。カッコ良く、一発決めて山の神にも見てもらおう。

アメリカ

S·F·O·A（サウス・ウエスト　フットボール・オフィシャル・アソシエーション）夏季クリニックが、今年はヒューストン・チャプター主催で、8/14～8/16の３日間の日程で行なわれ、関東審判部からは小畑・中尾・東、各氏が参加致しました。クリニックの内容等につきましては、次回に詳しく掲載する予定ですが、クリニック会場で下図のプリゲーム・ミーティング用のボード（Ａ４判、ファイルケースの内側にプリント）が販売されていたとの事。ご参考まで……。



PRE-GAME CONFERENCE

GENERAL
1. SYNCHRONIZE WATCHES
2. CHECK GAME BALLS
3. CHECK YOUR EQUIPMENT
4. CHECK FIELD

TOSS
1. MECHANICS
2. ALSO SECOND HALF

KICK PLAYS
1. POSITIONS
2. SHORT KICKS
   ILLEGAL TOUCHING
3. GOAL LINE
4. MOMENTUM
5. BLOCKING
6. FAIR CATCH
7. ROUGHING KICKER

SCRIMMAGE PLAYS
1. POSITIONS
2. LEGALITY OF FORMATION
3. SHIFTS/MOTION
4. FALSE STARTS
5. ENCROACHMENT
6. FORWARD PROGRESS
7. COUNT PLAYERS
8. SEE LEATHER

PASS PLAYS
1. POSITIONS
2. ELIGIBILITY
3. BLOCKING
4. LEGALITY OF PASS
5. INELIGIBLES
6. INTERFERENCE
7. EYE CONTACT WITH
   OTHER COVERING OFF
8. INTERCEPTING MOMENTUM

GOAL LINE PLAYS
1. POSITIONS 10 YARDS IN
2. SEE LEATHER
3. GOOD EYE CONTACT

TRY/FIELD GOAL PLAYS
1. POSITIONS
2. ROUGHING KICKER/HOLDER
3. SIGNALS
4. INTERVAL FOULS

理事会報告

（文責）編集部

理事会は、毎月１回定例の会議を行なっており、各回の内容は議事録によって資料としてファイルされております。議事録は、公開資料ですので、詳細を知りたい方は、各理事が所持している議事録を参照して下さい。

FOA·EAST·NEW　No.10.

日本アメリカンフットボール審判協会

関東審判部・機関紙

発　　行：１９９２年９月２８日

発行責任者：伊藤　茂樹

☎ [redacted]

編集担当：伊藤　茂樹

☎ [redacted]

※ 無断転載、引用を禁止します。